

イエスさまのように より添い、認め合う子どもを目指して



巻頭言 校長 小原義信

イエス様のように

先週のバイブルウィークでは、先生方が日替わりでお話してくださいました。

1日目、増田先生

イエス様のような働きをしたパウロとシラスの話。牢屋に捕えられた二人は、天使によって牢屋から助け出されたとき、番人を一緒に救ってあげました。牢屋の扉が開き自分は殺されてしまうかもしれないと思った牢屋の番人もその家族も救われ、イエス様を信じるようになりました。パウロとシラスのようにイエス様を信じるお友達を増やしていくことが「イエス様のように」の実践です。

2日目、島尻先生

聖書の足し算のお話でした。聖書には「加える、まし加える、豊かにする、与えられる」という言葉がいくつもあります。五つのパンと二匹の魚をもっていた少年は、その全部をみんなに差し上げました。それによってイエス様が奇跡を起こし何千何万の人々がお腹いっぱいになりました。少年が人のためにパンと魚をささげたのも「イエス様のような」働きです。

3日目、佐藤先生

WWJD? What Would Jesus Do? イエス様ならどうしますか?

イエス様はどんな誘惑を受けても神様に従うほうを選びました。また、イエス様はいつも人が喜ぶことを選びました。

4日目、北先生

イエス様もいつも祈っていました。そして、今も天国で私たち人間の救いのために祈っておられます。「イエス様のように」とはお互いに祈りあうことです。友だちのため、そして、自分のため、サタンの誘惑に負けないようにいつも祈ることは「イエス様のように」なることです。

校訓 「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りにせよ。」



バイブル週間で上級生と下級生がペアになってお祈りしました。

5日目、平田先生

イエス様のような働きをした西岡京治。ブータンという国で農業の父と呼ばれました。水田や畑を作るために開墾し、生活道路、橋、水路などを造りました。ブータンの人々と一緒に彼らの必要のために命がけで働きました。「イエス様のように」というのは自分がしたいことをするというより、人の必要のために働き行動することです。

教師たちが語っているように「イエス様のように」とは、善悪の判断ができるようになったり、相手のことを思いやることができたり、喜んで働くことができたり、そして、自分の命も人の命も尊重できることです。

昨今、学校教育において道徳教育が注目され、教科化されています。文科省をはじめ多くの研究者が教材や方法、その取り組みや実践を広く発信しています。その努力が実ることを期待しています。正に「イエス様のような」姿が求められているのです。三育教育においては、「教科」であろうがなかろうが道徳的な教養を聖書から学びました。愛されるべき存在、愛すべき存在としてお互いを尊ぶことができるのであれば、ほとんど道徳教育は達成されるのでしょうか。イエス様のようにするには、まずイエス様につながっていることだと聖書は教えています。

「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」ヨハネの福音書15章5節

ご家庭の上に神様からの祝福が豊かにありますようお祈り致します。

◇ 漢字検定 6月15日(金)

(申込み受付は終了しています。)

検定を受ける児童のお迎えをお願いいたします。終了時刻は16:30頃です。(人によって若干差があります。)

◇ 保護者会奉仕日(清掃日)

日時：6月17日(日)9:00~11:00頃

作業場所：校舎内

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

◇ 三育まつり 6月20日(水)

保護者会のご協力を心より感謝いたします。当日のプログラムは次のとおりです。

10:00~ 各クラス巡り(学年の出し物に参加)

11:30頃 昼食(カレーライス)

昼食終了次第、園ごとに解散します

園児の昼食が終了次第、小学生の食事となります。

※三育まつりのお手伝いをお申し出くださいました皆様、感謝いたします。当日の詳細は後日改めてお知らせいたします。

◇ 沖縄三育中学校オープンキャンパス

6月30日(土)~7月1日(日)

既に配布いたしました。申し込みは直接中学校にお願いいたします。

- ・オープンキャンパス(1年生以上および保護者)
- ・体験入寮(4年生以上の児童)

◇ 土曜日教会カード

教会カード(5月まで)を各担任に見せてくださるようお願いいたします。出席が多かった児童には賞状を渡すことになっています。

【 学校目標 】

<年間>

「イエス様のように」

~寄り添い、認め合う子どもを目指して~

<1学期>

礼儀正しい子どもになろう

<6月の目標>

人を輝かせる言葉で話す子ども

<6月の暗唱聖句>

「正しく答える人には喜びがある。時宜になった言葉はいかに良いものか。」

箴言 15 : 23

人に喜ばれる経験はステキです。登校時間、「おはよう!」「おはようございます!」の挨拶が交わされる時、嬉しくてつい笑みがこぼれます。それはささいなことですが、心のプレゼント交換の時間です。子どもたちは自分が持っているものを私に、私も自分の持っているものを相手に与える瞬間なのです。

キリストは「受けるよりは与える方が幸いである」(使徒言行録 20 章 35 節)と言われました。不思議なことに喜びは、受けるよりも与えることでもたらされます。

親子共に、相手を喜ばせる自分を心がけて下さい。輝く言葉を語るのは、良い関係以上にそれぞれの心を安定させ、自尊心を育み、互いに喜びで満たされることでしょう。

チャブレン 関谷修一

◇ SDA 福祉募金

三育小学校の設立母体である SDA 教会(セブンスデー・アドベント教会)は国内外の福祉や災害援助の働きを長く続けています。普段は教会員の献金や募金、会費等によって事業を行っていますが、年に一度、広く一般の方々にもご協力いただいています。

保護者の皆様でご賛同いただける方はご協力をお願いいたします。詳細は来週教会より配布予定のパンフレットをご覧ください。